

理数系研究の成果披露

五所川原、三本木、弘南 3高校発表会

弘前

県高等学校長協会理数科部会(部会長||野村卓司五所川原高校長)は10日、弘前市の弘前大学で「県高等学校理数系課題研究発表会」を開いた。五所川原高



発表を終え、質疑に応じる弘前南高の生徒たち

高スーパーサイエンスハイスクール(SSH)クラスの生徒たちが、これまで取り組んで来た研究成果を披露した。発表会には傍聴の八戸北高理系生徒も加え約200人が参加。数学・地学、物

理、化学、生物の4分科会でそれぞれ発表し、弘大の教員から助言を受けた。このうち物理の分科会では、初参加となる弘前南高SSHの1年生のグループが、羽根の形状や素材がそれぞれ異なる風車を使い、最も発電効率が高い風車の調査結果を発表した。グループは、羽根が斜めにねじれた「ループウィング」型の風車が優れているとの仮説に立ち、さまざまな距離や角度から風を当てて検証。同型の風車が「弱い風の地域や風向きが安定しない地域でも一定のエネルギーが得られる」と結論づけた。

弘大の教員からは、比較実験の基準となるポイントの設定や風速の計測の仕方などについて、厳しくも温かいアドバイスが出ていた。同グループの栗原孔明君は「考察をまとめることと、人に伝えることの違い、難しさを知った」と感想を語った。(安達一将)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科
E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp